

令和7年
2025年

11月19日
水曜日

第11837号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6カ月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



京都で近東北連合肉牛共進会が開催された……P4～5

▶ 農畜産業振興機構、食肉販売動向調査
「25年上半期実績と下半期の見通し」①
…………… P2～3

▶ 25/26年度の穀物生産量は消費量を下回る見
込み—USDA報告…………… P3

▶ 京都で近東北連合肉牛共進会、大臣賞は大洞畜
産、雌の最優秀賞は渡邊…………… P4～5

▶ 竹岸食肉専門学校で26年4月入学1年コースか
ら奨学金制度導入、女性がより学びやすい環境に
学生寮なども整備…………… P5

▶ 東京市場豚肉営業部が第4回勉強会、豚の疾病テー
マに講演…………… P6～7

▶ 米国、アルゼンチン産牛肉の輸入拡大の意向と牛肉
産業強化計画を発表…………… P7

▶ [資料] 都道府県別枝肉生産量（令和7年9月）
…………… P8～9

▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 18日……P10

▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 18日…P11

注目のヘッドライン

農畜産業振興機構、食肉販売動向調査 「25年上半期実績と下半期の見通し」①

農畜産業振興機構は食肉の消費・販売動向を把握するため、
年に2回、卸売業者や小売業者の協力を得て、食肉の取り扱
いや販売見通しに関するアンケート調査を実施している。

…詳細はP2～3

25 / 26年度の穀物生産量は消費量を 下回る見込み—USDA報告

…詳細はP3

食の感動体験を創造することで
世界中の人々と食をつなぎ続ける



<https://www.starzen.co.jp/>



<https://www.sfoods.co.jp/>

農畜産業振興機構、食肉販売動向調査 「25年上半期実績と下半期の見通し」①

農畜産業振興機構は食肉の消費・販売動向を把握するため、年に2回、卸売業者や小売業者(量販店および食肉専門店)の協力を得て、食肉の取り扱いや販売見通しに関するアンケート調査を実施している。今回は、2025年度上半期(25年4~9月)の実績および25年度下半期(25年10月~26年3月)の見通しについて調査を行った(25年8月時点)。調査の概要は以下の通りである。

卸売業者29社(うち、牛肉卸15社、豚肉卸14社)、小売業者80社(うち、量販店19社、食肉専門店61社)を対象に25年8月1~22日にアンケート調査を行い、全社から回答を得た。なお、調査対象者は、食肉の市況(仲間相場)や小売価格について、同機構が定期的に調査を実施している主要な食肉の卸売業者および小売業者であり、全ての業者ではない。

今回の調査で特徴的であったのは次の5点だった。

①卸売業者における25年度上半期の販売状況については、牛肉全体では「同程度」が5割弱と最も多い中、「増加」が「減少」を上回った。品目別にみると、和牛は「小売向け需要の増加」や「輸出需要」などから「増加」が最も多かった。また、和牛以外では、「同程度」が最も多く、交雑牛は「小売向け需要の増加」などから「増加」が「減少」を上回った一方、乳用牛は「生産量の減少」、輸入品(冷蔵・冷凍)は「相場高」などから「減少」が「増加」を上回った。豚肉全体では、8割が「同程度」と回答があった。品目別にみると、すべての区分で「同程度」が最も多い中、国産豚肉は「外食向け需要の増加」などから「増加」が「減少」を上回った一方、輸入品(冷凍)は「相場高」などから「増加」の回答がゼロであった。

②卸売業者における今後1年間の輸入食肉の取扱見通しについては、輸入牛肉全体では「同程度」が7割弱で最も多かった。国別にみても「同程度」が最も多い中、カナダ産は「相場安」、豪州産は「外食向け需要の増加」などから「増加」が「減少」を上回った。また、輸入豚肉全体では、「同程度」が8割強で最も多かった。品目別にみると、ブラジル産は「相場安」などから「増加」が最も多かった。

③小売業者(量販店)における25年度上半期の販売状況については、国産・輸入鶏肉が「消費者の低価格志向」などから「増加」となった一方、輸入牛肉および乳用牛が「原価高」などから「減少」となった。また、和牛および国産豚肉は「増加」と「同程度」が同水準となり、交雑牛および輸入豚肉は「同程度」が最も多かった。

④小売業者(量販店)における25年度下半期の販売見通しについては、国産・輸入豚肉が「販促強化」などから「増加」が多かった一方、乳用牛が「原価高」などから「減少」が多かった。

⑤卸売業者における25年度上半期の在庫量については、牛肉・豚肉(冷蔵・冷凍)全体として、おおむね計画通りかやや多い水準となったが、国産豚肉(冷凍)はやや少ない水準となった。

【卸・牛肉】25年度上半期の卸売業者における牛肉の取扱状況(重量ベース)について、前期(24年度下半期)との比較で、牛肉全体では「同程度」が50%と最も多い中、「増加」が「減少」を上回った。増加理由としては、「小売向け需要の増加」、が最も多く、次いで「他畜種との需要シフト」などが挙げられた。

品目別にみると、和牛は「増加」が最も多かった。また、和牛以外では、「同程度」が最も多く、交雑牛は「増加」が「減少」を上回った一方、乳用牛および輸入品(冷蔵・冷凍)は「減少」が「増加」を上回った。和牛の増加理由については、和牛は「小売向け需要の増加」が最も多く、次いで「輸出需要」、交雑牛は「小売向け需要の増加」が最も多く挙げられた。一方、減少理由については、乳用牛は「生産量の減少」などが挙げられ、輸入品(冷蔵・冷凍)は「相場高」が最も多く挙げられた。

25年度上半期の卸売業者における冷蔵牛肉の仕向け先別販売割合の実績(重量ベース)をみると、全ての区分で「量販店・食肉専門店」が最も多かった。前期(24年度下半期)と比べると、和牛で「食肉加工業者」が5.7ポイント、「2次卸売業者」が5.4ポイント低下した一方、「量販店・食肉専門店」が0.8ポイント、「外食店」が2.4ポイント、「輸出」が7.5ポイント上昇した。「外食店」の内訳をみると、全ての

区分で「焼き肉店」が最も多かった。次位は、和牛および輸入品で「ステーキ店」、交雑牛および乳用牛で「ホテル」であった。「食肉加工業者」の用途は、主に「ハンバーグ」「ハム・ソーセージ」「レトルト食品」などとなっている。また、その他の用途として、「ローストビーフ」などが挙げられた。なお、冷蔵品の取扱割合は、和牛が77・1%（前期から0・8ポイント低下）、交雑牛が82・2%（0・5ポイント低下）、乳用牛が61・7%（8・8ポイント上昇）であった。

25年度上半期の卸売業者における冷凍牛肉の仕向け先別販売割合の実績（重量ベース）をみると、和牛、交雑牛、輸入品で「外食店」、乳用牛で「量販店・食肉専門店」が最も多かった。前期（24年度下半期）と同傾向となった。「外食店」の内訳は、全ての区分で「焼き肉店」が最も多かった。和牛、交雑牛、乳用牛の次位は「すき焼き・しゃぶしゃぶ店」で、いずれもこの二つで過半数となっている。一方、輸入品の次位は「ファストフード」で、上位二つで4割台となっており、他の区分と比較して、仕向け先の割合が分散されている。「食肉加工業者」の用途は、交雑牛を除いて「ハンバーグ」が最も多く（和牛はレトルト食品と同率）、冷蔵と同様に「ローストビーフ」などが挙げられた。交雑牛は「ハム・ソーセージ」や「ローストビーフ」などが挙げられた。なお、冷凍品の取扱割

合は、和牛が22・9%（前期から0・8ポイント上昇）、交雑牛が17・8%（0・5ポイント上昇）、乳用牛が38・3%（8・8ポイント低下）であった。

今後1年間の卸売業者における輸入牛肉の取扱見通し（重量ベース）については、輸入牛肉全体では「同程度」が66・7%で最も多い中、「減少」が20・0%、「増加」が13・3%であった。国別にみると、「同程度」が最も多い中、カナダ産および豪州産は「増加」が「減少」を上回った一方、メキシコ産は「減少」が「増加」を上回った。なお、米国産およびニュージーランド産は「増加」と「減少」が同率であり、メキシコ産およびその他では「増加」の回答がゼロであった。「増加」の理由としては、米国産、カナダ産、ニュージーランド産は「相場安」、豪州産は「外食向け需要の増加」が最も多かった。

今後1年間の卸売業者における輸入牛肉の販売価格見通しについては、輸入牛肉全体では「値上げする」が73・3%と最も多く、前期から1・9ポイント上昇した。国別にみると、その他およびニュージーランド産を除いて「値上げする」がおおむね7割強、ニュージーランド産は9割弱を占めた。値上げの理由としては、全ての区分において「相場高」などが挙げられた。（連載続く）

25 / 26年度の穀物生産量は消費量を下回る見込み—USDA報告

農水省がまとめた米国農務省穀物需給報告（現地時間17日）によると、2025/26年度の世界の穀物全体の需給は、生産量が29億4589万t（前年度比3・2%増）、消費量が29億4713万t、（2・3%増）、期末在庫量が7億6895万t（0・2%減）を見込んでいる。

品目別にみると、小麦の生産量は8億2889万t（3・5%増）、消費量は8億1890万t（1・1%増）、期末在庫量は2億7143万t（3・8%増）を見込んでいる。価格は10月に入り、世界的に小麦の供給が潤沢なことなどを受けて4ドル／bu台後半まで値を下げたものの、米中首脳会談による貿易協議進展への期待などを受けて値を上げ、10月末現在、5ドル／t台半ばで推移。

とうもろこしの生産量は12億8623万t（4・5%増）、消費量は12億9654万t（3・3%増）、期末在庫量は2億8134万t（3・5%減）を見込んでいる。価格は10月に入り、米国の堅調な国内需要や米中首脳会談による貿易協議進展への期待などを受けて値を上げ、10月末現在、4ドル／bu台半ば近くで推移。

大豆の生産量は、4億2175万t（1・3%減）、消費量は4億2154万t（2・1%増）、期末在庫量は1億2199万t（1・1%減）を見込んでいる。価格は10月に入り、米中首脳会談による貿易協議進展への期待などを受け値を上げ、10月末現在、10ドル／bu台後半で推移。

京都で近東北連合肉牛共進会、大臣賞は大洞畜産、雌の最優秀賞は渡邊

第65回農林水産祭参加、第72回近畿東海北陸連合肉牛共進会(会長=中川泰宏・全国農業協同組合連合会京都府本部運営委員会会長)が16日、京都市南区の京都市中央食肉市場で開催された。静岡県、岐阜県、三重県、滋賀県、京都府、兵庫県から肉牛100頭(第1部雌の部55頭、第2部去勢の部45頭)が出品され、審査の結果、最優秀賞・農林水産大臣賞(京都市長賞)には岐阜県の(有)大洞畜産の出品牛(去勢、父「孝隆平」、母の父「花清光」、30・00カ月齢、枝肉重量598・9kg、ロース芯面積81cm²、歩留まり基準値76・7、格付A5、BMSNo.12)を選出。競りでは京都府の(株)三嶋亭がキロ当たり1万10円で落札した。雌の部の最優秀賞(京都府知事賞)は静岡県の(有)渡邊の出品牛(父「夏百合」、母の父「諒太郎」、32・06カ月齢、549・5kg、ロース芯面積119cm²、歩留まり基準値82・5、A5、No.12)が選ばれ、同じく三嶋亭が7010円で落札した。

競りに先立ち行われた褒賞贈呈式では冒頭、所用で欠席した中川会長に代わり副会長を務める全国農業協同組合連合会京都府本部の宅間敏廣本部長が関係者に謝辞を述べ、「本共進会の第1回は生体の状態で開催されたが、以降、畜産技術の向上と成果を存分に発揮する場として毎年開催されている。また、平成5年には神戸・西部市場で枝肉共進会として実施され、各府県から全国でも有数のブランド牛が出品される伝統と歴史あるレベルの高い共進会として開かれている」

「昨今は物価高により、生産を取り巻く環境は非常に厳しい。また、消費者の消費動向も大きく変わる中、変化に応じた対応に取り組まれている。今回の共進会を機に、地域の交流をさらに深めていただき、未来の畜産の向上に努めていただきたい」などとあいさつした。

来賓では農林水産省近畿農政局の犬塚明神次長、京都府の鈴木一弥副知事、京都市の岡田憲和副市長がそれぞれの立場から祝辞。生産現場の現状や課題、支援策などについて言及があった他、京都府内のインバウンドを含む消費動向などについて述べた。

来賓紹介に続き、各賞受賞者を代表し第1部・2



部で最優秀賞を受賞した2人を表彰。審査委員紹介が行われた後、代表して委員長を務めた公益(社)全国和牛登録協会の向井文雄会長理事が審査講評を行った。

第1部の平均の出荷月齢は33・4カ月、枝肉重量525・8kg、ロース芯面積79・5cm²、バラ厚9・4cm、歩留まり基準値76・5、MUF A推定値65・6%、BMS10・0。2部の平均は月齢30・3カ月、枝肉重量582・0kg、ロース芯面積85・3cm²、バラ厚10・2cm、歩留まり基準値77・7、MUF A推定値62・2%、BMS10・9。

最優秀賞受賞牛について向井委員長は「雌の部は大きなロース芯面積と歩留まり基準値だけでなく、肉の色沢やキメなど肉質においても印象的な枝肉。農水大臣賞を受賞した去勢の部は枝肉断面のバランスが良く、充実した素晴らしい枝肉。また、肉質も良好で色と光沢が素晴らしく、脂質も優れている」と評価。祝電披露の後、褒賞贈呈式を終了した。

小憩の後、競り場に移動。全農京都府本部の宅間本部長が購買者に謝辞を述べ、「京都は秋の観光シーズンを迎えている。インバウンド需要の増大により、海外からもかなり多くの方がいらっしやっている

が、府内の方々にも景気の回復を実感していただけるよう、伝統ある共進会でできるだけ高値の購買により、経済活性化につながっていただきたい」とあいさつし活気ある取引が展開された。入賞者や競りの結果は表の通り。

なお、今回の共進会で京都食肉市場(株)は、雌牛、去勢牛それぞれの最優秀賞受賞者に対し、同社社長賞の副賞としてCOTOCUL KYOTOとのコラボレーションにより、受賞牛の皮を用いた記念財布を制作し贈呈した。

雌の部

2025.11.16

区分	出品番号	府県名	出品者名	格付	枝肉重量	単価	購買者		BMS
最優秀賞	65	静岡県	(有)渡邊	A5	549.5	7,010	436	(株)三嶋亭	12
優秀賞	1席	1	滋賀県 近江谷口牧場(株)	A5	471.8	10,070	922	肉のげんさん	12
	2席	71	岐阜県 (農)山勇畜産	A5	460.1	4,530	906	(有)肉のキング	12
	3席	35	京都府 平井 正子	A5	528.6	5,030	401	(株)銀閣寺大西	12
優良賞	1席	27	三重県 (農)半田肉牛肥育組合	A5	518.0	3,250	916	伊賀肉 JAのお店 あやま	12
	2席	58	静岡県 (株)すずき牧場	A5	586.6	3,710	484	(株)京都協同管理	12
	3席	10	滋賀県 (株)まるさん牧場	A5	541.7	4,000	919	(株)千成亭風土	12
	4席	29	三重県 清水 一樹	A5	545.9	3,020	913	(株)柿安本店ミートセンター	12
	5席	90	兵庫県 上田 伸也	A5	510.5	7,010	944	牛匠 上田	10

去勢の部

区分	出品番号	府県名	出品者名	格付	枝肉重量	単価	購買者		BMS
最優秀賞	75	岐阜県	(有)大洞畜産	A5	598.9	10,010	436	(株)三嶋亭	12
優秀賞	1席	45	京都府 人見 政章	A5	724.1	5,010	401	(株)銀閣寺大西	12
	2席	37	京都府 西川 貴大	A5	690.9	4,530	354	(有)木曾精肉店	12
	3席	78	岐阜県 (有)牛丸畜産	A5	680.0	3,840	905	(株)肉の匠家	12
優良賞	1席	73	岐阜県 (株)わたなべ	A5	559.0	4,020	908	(有)ながせ食品	12
	2席	39	京都府 人見 武瑠	A5	678.0	3,510	484	(株)京都協同管理	12
	3席	52	京都府 数井 隆夫	A5	664.0	3,310	484	(株)京都協同管理	12
	4席	43	京都府 平井 和恵	A5	698.9	3,610	401	(株)銀閣寺大西	12
	5席	66	静岡県 山本牧場(株)	A5	559.5	3,320	933	浜松ハム(株)	12

**竹岸食肉専門学校で 26年4月入学1年コースから奨学金制度導入
女性がより学びやすい環境に学生寮なども整備**

昭和39年の創立以来、6400人余りの卒業生を食肉業界のみならず、小売業など流通業界に人材を輩出してきた学校法人竹岸学園竹岸食肉専門学校(茨城県土浦市、水野正徳学校長)は、2026年4月入学の本科生(1年コース)から授業料を免除する奨学金制度を導入する。精肉店経営の個人事業主や企業を目指す若い世代を応援する目的で、募集人数は若干名。面接と小論文により選考する。卒業生組織である青雲ミート会なども通じて情報を発信し、応募を呼びかける。

また、学校近郊のアパートを借り上げ寮として活用し、女子学生がより学びやすい学習環境の整備も図る。

14日には恒例の竹岸祭が挙行され、爽やかな秋晴れの中、今年10月に入学した124期生と卒業したばかりの123期生有志、学校関係者との交歓が図られた。学校行事として行われたオリエンテーリングや学



園周辺4kmマラソンの表彰式の後、卒業したばかりの123期の有志などのOB、学校関係者も交え、バーベキューを堪能した(写真)。

日本剣道型の演武や在校生による余興なども披露され、和やかな宴の後、万歳三唱と手締めを行い散会した。

奨学金制度など入学についての問い合わせは電話029(841)0497まで。

東京市場豚肉営業部が第4回勉強会、豚の疾病テーマに講演

東京食肉市場(株)は17日、第4回豚肉営業部勉強会を開催した。今回取り扱ったテーマは、豚の疾病。疾病が豚の成育にどのような影響を与えるか、また現在流行している疾病、そしてその予防と対策について、(株)シムコ技術部防疫対策チームの柴野正治チーム長が講演。勉強会には生産者、購買者、豚肉営業部の社員ら多数が参加。質疑応答では柴野氏に熱心に質問する姿がみられ、参加者同士がそれぞれの立場からコミュニケーションを深める機会ともなった。講演で柴野氏は、特に生産性に大きな影響のある4種類の疾病について紹介した。

「PRRS」(豚繁殖・呼吸器症候群)は、感染豚との接触、飛沫、精液などで伝ばする。隣接する農場へは風によって伝ばすることもある。一度発生すると常在化しやすく、清浄化が困難な疾病だ。母豚では妊娠後期での早産、流産、死産、虚弱子の出生などの繁殖障害を起こし、子豚から肥育豚では主に呼吸器症状、発育不良の原因となる。PRRSウイルスは感染により免疫能を下げため、さまざまな病原体と複合感染を起こし、病態を悪化させる。特にマイコプラズマ肺炎、サーコウイルスとの複合感染を引き起こすことがある。PRRSに関連する呼吸器疾患および繁殖障害による全国の養豚場の損失額は283億円と推定され、母豚300頭規模の農家においてPRRSを撲滅した場合、年間1282万円の増収が期待できる。

「マイコプラズマ肺炎」は、感染豚のせき、くしゃみによる飛沫で伝ばする。マイコプラズマ単独感染による死亡率は低いものの、罹患率が高く、発症した豚では発育不良が認められる。また、他の疾病との複合感染を起こしやすく、その場合には臨床症状が重篤化しやすい。

「サーコウイルス関連疾病」(PCVAD)は、豚サーコウイルス感染によって起こり、主に5～12週齢の豚に感染し、特に6週から8週齢の豚に多くみられる。発育不良を起こし、呼吸器症状がみられることがある。感染により免疫力が低下し、さまざまな複合感染を引き起こし重篤化する。致死率は7～18%程度だが、感染期間が長期に及ぶため、経済的被害も大きい。

「豚熱」は、感染豚や野生猪の唾液、涙、ふん尿との接触、または汚染された物を介し感染し、強い伝染



力と高い致死率が特長だ。治療法はなく、感染が確認された場合は殺処分により防疫措置が取られる。

2018年に岐阜県で発生以降、25年11月までに24都県で100件の発生が確認されており、殺処分頭数は累計約43万6千頭に上る。19年10月にワクチン接種を開始し、農場での発生件数は減少傾向になっている一方、感染地域は拡大。当初は中部中心だったが、岩手、新潟、愛媛、千葉など未発生地域にも波及。25年4月には、これまで野生猪の患畜がなかった宮崎でも確認されている。農場での発生は抑えられているが、野生猪で散発的な感染が継続し、宮崎、鹿児島など農場の多い南九州での発生が危惧されている。

農水省の豚熱清浄化ロードマップ(25年6月発表)では、マーカーワクチンを早期に実用化し、これに切り替え、飼養豚での感染がない状況を確保し、2050年を目標に「豚熱清浄国ステータス」を目指す。殺処分については、これまでの知見を踏まえ、範囲の見直しを検討。これまでの全頭殺処分から①ワクチン未接種豚②ワクチン接種後20日以内の豚③発育不良豚④豚熱の臨床症状を呈し、PCR陽性の豚に限定して殺処分を行う方針。野生猪の感染縮小が可能となれば、猪の感染リスクがない地域から、飼養豚のワクチン接種を中止。最終的に全国でのワクチン接種の中止を目指す。

また、アフリカ豚熱(ASF)は、感染豚や野生猪の唾液、涙、ふん尿との接触、または汚染されたもの、ダニを介し感染し、強い伝染力とほぼ100%に達する致死率が特徴。治療法はなく、ワクチンもない。18年8月に中国においてアジアで初めて発生。その後、韓国、ベトナムなど、アジア全域に感染が拡大している。現在、東アジアで発生が確認されていないのは日本のみ。ただ、空港検疫で海外から旅行客が持ち込んだ肉製品からウイルスが検出される事例が増加。

空港での水際対策で防いでいるものの、日本国内への侵入の可能性は高まっている。発症した場合、治

療法もワクチンもないため、農場へウイルスを侵入させない防疫管理が非常に重要だ。

米国、アルゼンチン産牛肉の輸入拡大の意向と牛肉産業強化計画を発表

米国では、2022年に発生した大規模な干ばつや、メキシコでのラセンウジバエの確認に伴う生体牛の輸入停止などの影響により、牛飼養頭数が減少し、牛肉生産量も減少している。これに伴い米国産牛肉の価格が高止まりする中、25年4月以降に講じられた相互関税および追加関税も、主にひき材として使用される輸入牛肉価格の高騰につながっている。

このため、牛肉卸売価格は今年8月に調査開始以来の最高額を記録し、バーベキューシーズンの終了後も、引き続き昨年を上回って推移している。牛肉生産量の減少や牛肉価格の高騰については、米国の現地報道において多く取り上げられ、国民の関心も高まりつつある。このような状況の中、トランプ大統領は25年10月19日、アルゼンチン産牛肉の輸入を拡大する旨の発言をした。また、同月22日、米国農務省(USDA)は、米国国内の牛肉生産量の回復を促進するため、牛肉産業強化計画を発表した。

25年10月22日、ロリンズUSDA長官、バーガム内務省(DOI)長官、ケネディ保健福祉庁長官、レフラー中小企業庁(SBA)長官は共同で米国牛肉産業強化計画を発表した。同計画は①畜産経営保護と経営環境の改善②食肉加工能力の拡充、消費者への透明性確保および市場アクセスの改善③国内供給に見合う需要の創出——という三つの優先事項から成り立っている。

同計画は、既存支援メニューおよび今後取り組む政策を組み合わせたパッケージとなっており、その対策項目の概要は以下の通りである。

①畜産経営保護と経営環境の改善——USDAおよびDOIが管理する国有地内の放牧・牧草地へのアクセス改善、捕食動物の管理方法と種の保存法の改正、災害対策(家畜損害賠償プログラム<LIP>や家畜牧草地災害プログラム<LFP>の改善)および捕食動物被害対策の強化、リスク管理局(RMA)が提供する保険プログラムの費用負担軽減および新規畜産経営者への優先的な支援、農業参入支援プログラムによる退役軍人からの申請の優遇措置②食肉加工

能力の拡充、消費者への透明性確保、市場アクセスの拡大——消費者にとって目視しやすく正確なラベル表示を通じた米国産牛肉の保護と促進、公正かつ透明性のある牛肉取引の促進、遠隔格付システムなどの利用等、中小規模の食肉加工業者のための技術革新とコスト削減、中小規模の食肉加工業者が活用するUSDA検査官の時間外および休日検査料の削減、地元の食肉加工施設整備による地域内マーケティング機会の拡大、LiDAR技術(レーザー光照射による測定技術)を用い肥育素牛を評価する新技術の試験導入、水質浄化法に基づく規制の緩和③国内供給と並行した需要の創出——児童栄養プログラム(CNP)による地元で生産された牛肉の提供促進、科学的根拠に基づく「米国人のための食生活指針」の策定。

アルゼンチン産牛肉の輸入拡大に関する今回の発言について、米国肉牛生産者協会(USCA)はいち早く反応し「米国畜産業の基盤と農村部の基幹産業を危険にさらす」と強く反発した。全国肉牛生産者・牛肉協会(NCBA)は「消費者向け価格引き下げを目的とした追加輸入は、業界に混乱を生むだけで効果は全くない」と懸念を表明し、アルゼンチンにおける口蹄疫の発生歴も指摘した上で、米国の畜産業を保護するよう求めた。米国農業局連盟(AFBF)は、「輸入拡大は牛群再構築を判断する農家に不安定さと不確実性をもたらし、米国の食料自給能力にも影響を及ぼす」とし、慎重な対応を要請した。

一方、USDAが発表した牛肉の生産拡大計画について、USCAは、「米国人のための食生活指針におけるタンパク質の役割の認識、中小規模加工施設への支援、ラベル表示規定の厳格な執行などは業界の懸念に寄り添うものである」と評価した。米国食肉加工業者協会(AAMP)も「助成金の提供、遠隔の等級格付システムの拡大、中小規模の食肉加工業者に対する検査費用削減などの支援策を歓迎する」とし、同国の食肉加工強化・支援に期待を示した。(農畜産業振興機構)

[資料] 都道府県別枝肉生産量 (令和7年9月)

年次・ 都道府県	豚	牛計	成牛								
			計	和牛			乳牛				
				小計	雌	去勢	雄	小計	雌	去勢	
全国 (1)	101,416.2	40,841.6	40,803.9	21,387.9	9,532.0	11,846.8	9.1	8,416.7	4,520.4	3,867.2	
北海道 (2)	9,299.1	7,909.7	7,889.2	833.8	354.5	479.3	-	5,071.9	2,341.5	2,719.2	
青森 (3)	6,611.9	1,206.4	1,206.2	351.7	140.4	211.4	-	340.1	23.5	316.7	
岩手 (4)	2,328.5	717.5	717.2	495.6	224.0	269.5	2.1	62.7	54.2	8.5	
宮城 (5)	2,237.3	695.3	694.9	542.4	238.0	304.3	-	82.9	82.5	0.4	
秋田 (6)	2,055.8	157.0	156.9	131.4	43.1	88.3	-	1.3	-	1.3	
山形 (7)	2,393.7	628.6	628.6	521.1	417.2	103.9	-	9.3	9.3	-	
福島 (8)	1,393.8	121.9	121.9	105.7	55.9	49.9	-	6.9	6.0	0.9	
茨城 (9)	6,681.4	1,589.1	1,583.5	573.9	247.4	326.1	0.4	454.1	391.0	59.6	
栃木 (10)	2,610.3	433.9	433.2	142.9	73.8	69.1	-	107.4	95.7	11.6	
群馬 (11)	4,207.8	597.3	597.3	158.0	52.0	105.9	-	35.9	14.4	21.5	
埼玉 (12)	3,326.9	1,179.0	1,178.3	378.7	178.7	199.9	-	288.2	261.3	26.4	
千葉 (13)	5,390.6	797.7	792.8	107.8	54.6	51.4	1.8	230.3	176.1	43.0	
東京 (14)	1,388.0	3,541.0	3,541.0	2,791.1	1,073.8	1,717.3	-	17.3	0.3	17.0	
神奈川 (15)	3,348.9	681.1	681.1	359.6	173.2	186.4	-	56.4	47.0	9.0	
新潟 (16)	2,662.8	99.5	99.3	48.3	14.5	33.8	-	10.7	8.4	2.2	
富山 (17)	555.8	57.2	57.2	28.7	11.1	17.7	-	1.9	0.6	1.3	
石川 (18)	195.1	170.5	170.4	75.0	27.7	47.3	-	32.1	21.4	10.7	
福井 (19)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨 (20)	232.8	181.2	180.9	100.6	61.9	38.4	0.4	29.8	29.8	-	
長野 (21)	770.8	187.6	187.6	84.8	30.3	54.5	-	31.5	31.0	0.4	
岐阜 (22)	571.7	599.5	599.2	421.6	127.1	294.4	-	76.0	72.8	3.1	
静岡 (23)	1,140.6	287.5	287.2	97.4	63.1	34.3	-	27.2	25.9	1.3	
愛知 (24)	3,334.0	683.2	682.7	180.6	88.7	91.9	-	58.5	28.0	30.5	
三重 (25)	1,002.8	315.4	315.3	246.6	236.8	9.9	-	43.9	41.2	2.7	
滋賀 (26)	-	368.5	368.5	292.2	223.1	69.1	-	1.6	0.3	1.3	
京都 (27)	120.9	542.4	542.4	437.4	252.5	184.9	-	2.1	1.2	0.9	
大阪 (28)	131.6	924.4	924.4	455.8	187.3	268.5	-	93.4	10.5	82.9	
兵庫 (29)	665.6	2,593.3	2,592.9	1,905.3	1,066.9	837.6	0.7	215.4	109.9	103.5	
奈良 (30)	52.3	94.6	94.6	42.1	35.8	6.2	-	35.8	19.3	16.6	
和歌山 (31)	-	11.9	11.9	5.1	5.1	-	-	-	-	-	
鳥取 (32)	446.9	185.3	185.3	68.4	17.5	50.9	-	89.9	26.8	63.2	
島根 (33)	458.7	149.0	149.0	96.0	35.4	60.2	0.4	22.1	20.8	1.3	
岡山 (34)	472.4	247.0	246.8	74.5	38.8	35.3	0.4	115.3	81.3	34.0	
広島 (35)	465.4	652.3	652.1	180.9	78.9	101.3	0.7	154.1	102.6	51.5	
山口 (36)	-	67.0	67.0	16.3	13.2	3.1	-	18.5	10.8	7.6	
徳島 (37)	1,391.0	311.8	311.7	142.6	65.3	77.4	-	15.3	14.4	0.9	
香川 (38)	932.3	828.2	828.2	230.0	67.0	163.1	-	74.3	16.6	57.8	
愛媛 (39)	1,080.0	94.0	94.0	44.1	19.2	24.9	-	22.6	6.0	16.6	
高知 (40)	622.6	105.7	105.7	57.3	25.6	31.7	-	5.1	5.1	-	
福岡 (41)	1,289.9	2,143.6	2,143.4	1,612.7	796.9	815.8	-	81.6	52.1	29.6	
佐賀 (42)	468.9	215.6	215.6	212.6	68.3	144.4	-	1.7	1.2	0.4	
長崎 (43)	3,641.8	724.4	724.2	468.1	187.7	280.4	-	98.1	53.3	44.8	
熊本 (44)	1,017.1	1,299.2	1,299.0	917.3	334.5	582.1	0.7	143.1	134.5	8.5	
大分 (45)	932.0	285.0	285.0	208.9	92.6	116.3	-	22.8	17.5	5.4	
宮崎 (46)	6,107.4	2,115.9	2,115.0	1,513.2	634.4	878.1	0.7	65.3	12.9	52.4	
鹿児島 (47)	15,669.1	3,859.6	3,859.3	3,456.8	1,212.4	2,243.4	1.1	53.6	53.6	-	
沖縄 (48)	1,710.1	186.1	186.0	173.0	85.7	87.2	-	8.3	7.8	0.4	

資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(単位 : t)

乳牛	成牛								子牛	馬	枝肉生産量
	交雑牛				その他の牛						
雄	小計	雌	去勢	雄	小計	雌	去勢	雄			
29.1	10,956.9	4,808.7	6,145.9	2.3	42.5	23.0	14.8	4.8	37.7	351.0	142,608.8
11.2	1,953.2	774.6	1,178.6	-	30.3	17.0	13.3	-	20.5	1.6	17,210.5
-	514.4	197.5	316.9	-	-	-	-	-	0.2	30.7	7,849.1
-	158.9	44.9	114.0	-	-	-	-	-	0.3	-	3,046.0
-	69.3	30.9	38.4	-	0.4	0.4	-	-	0.3	-	2,932.6
-	24.2	15.9	8.2	-	-	-	-	-	0.2	5.7	2,218.5
-	98.2	31.9	66.3	-	-	-	-	-	-	10.1	3,032.5
-	9.2	8.7	0.5	-	-	-	-	-	-	82.9	1,598.6
3.6	555.5	229.9	325.6	-	-	-	-	-	5.6	0.8	8,271.3
-	183.0	45.4	137.6	-	-	-	-	-	0.7	-	3,044.2
-	403.3	236.1	167.2	-	-	-	-	-	-	0.8	4,805.9
0.5	511.4	227.4	284.0	-	-	-	-	-	0.7	-	4,505.8
11.2	454.7	237.1	217.6	-	-	-	-	-	4.9	-	6,188.3
-	732.6	354.0	378.3	0.4	-	-	-	-	-	-	4,929.0
0.5	264.3	157.9	106.4	-	0.8	0.8	-	-	-	-	4,029.9
-	40.4	21.7	18.6	-	-	-	-	-	0.2	-	2,762.3
-	26.5	10.6	15.9	-	-	-	-	-	-	-	613.0
-	63.3	50.7	12.6	-	-	-	-	-	0.1	-	365.6
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	50.5	44.4	6.0	-	-	-	-	-	0.3	25.9	439.9
-	71.3	28.0	43.3	-	-	-	-	-	-	0.4	958.8
-	101.6	18.8	82.8	-	-	-	-	-	0.3	2.0	1,173.2
-	162.6	70.5	92.1	-	-	-	-	-	0.3	-	1,428.1
-	443.6	230.3	213.2	-	-	-	-	-	0.5	-	4,017.2
-	24.7	19.8	4.9	-	-	-	-	-	0.1	-	1,318.2
-	74.6	23.7	51.0	-	-	-	-	-	-	-	368.5
-	102.9	61.8	41.1	-	-	-	-	-	-	-	663.3
-	374.9	134.2	240.7	-	0.4	0.4	-	-	-	-	1,056.1
2.0	471.8	289.3	182.6	-	0.4	-	-	0.4	0.4	-	3,258.9
-	16.2	10.1	6.0	-	0.5	-	0.5	-	-	0.4	147.2
-	6.8	6.8	-	-	-	-	-	-	-	-	11.9
-	26.9	11.6	15.3	-	-	-	-	-	-	-	632.2
-	30.8	11.1	19.7	-	-	-	-	-	-	-	607.7
-	57.0	36.2	20.8	-	-	-	-	-	0.2	-	719.4
-	317.1	172.9	144.2	-	-	-	-	-	0.2	-	1,117.6
-	32.2	29.5	2.7	-	-	-	-	-	-	-	67.0
-	153.7	10.6	143.1	-	-	-	-	-	0.1	4.0	1,706.8
-	523.8	220.7	303.2	-	-	-	-	-	-	-	1,760.5
-	27.3	9.2	18.1	-	-	-	-	-	-	-	1,174.0
-	43.3	8.2	35.1	-	-	-	-	-	-	3.2	731.5
-	448.7	152.1	296.6	-	0.4	0.4	-	-	0.2	39.6	3,473.2
-	1.0	1.0	-	-	0.4	0.4	-	-	-	-	684.5
-	157.7	76.3	79.5	1.9	0.4	0.4	-	-	0.2	-	4,366.2
-	234.7	56.0	178.7	-	3.9	0.4	0.5	3.0	0.2	141.9	2,458.2
-	53.3	31.4	21.9	-	-	-	-	-	-	-	1,217.1
-	535.3	257.9	277.4	-	1.2	0.8	0.5	-	0.9	-	8,223.3
-	348.5	110.6	237.9	-	0.4	-	-	0.4	0.3	-	19,528.7
-	1.6	0.5	1.1	-	3.1	2.3	-	0.9	0.1	0.8	1,896.9

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 11月18日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 117頭	高値	3,566	3,169	2,394	-	-
		安値	2,454	2,431	2,326	-	-
		平均	2,814	2,554	2,360	-	-
		頭数	84	26	7	-	-
	雌 B -頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
	去 A 187頭	高値	3,219	2,598	2,393	2,184	-
		安値	2,352	2,377	2,325	2,147	-
		平均	2,672	2,503	2,366	2,164	-
		頭数	136	38	11	2	-
去 B 1頭	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	2,239	-	-	
	頭数	-	-	1	-	-	
乳牛	雌 B 2頭	平均	-	-	-	1,184	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B 15頭	平均	-	1,779	1,639	1,543	
		頭数	-	1	8	6	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
		頭数	-	-	-	-	
	去 B 20頭	平均	-	1,883	1,639	1,537	
	頭数	-	2	11	7		
去 C 1頭	平均	-	-	-	1,414		
	頭数	-	-	-	1		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	430 430	995 1,066	- 127.5	(競り)	(相対)	
				-	20	71

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌 A	高値	2,794	2,218	1,610	1,431	-
	安値	-	1,676	-	1,413	1,161
和 去 A	高値	2,504	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
乳 雌 B	高値	-	-	-	906	1,002
	安値	-	-	-	1,030	914
乳 去 B	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
交 雌 B	高値	-	-	1,513	-	-
	安値	-	-	-	-	-
交 去 B	高値	-	1,854	1,581	-	-
	安値	-	-	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	649	843	746	691	540
	安値	616	572	540	475	313
	平均	633	606	583	551	490
	頭数	(4)	(407)	(407)	(165)	(83)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	538	538
	頭数	(-)	(-)	(-)	(8)	(12)

[大阪食肉卸売市場] 11月18日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,584	2,358	2,181	-	-
(頭数)	(14)	(13)	(4)	(-)	(-)
B	2,402	-	-	-	-
(頭数)	(1)	(-)	(-)	(-)	(1)
和 去 A	2,545	2,344	2,155	-	-
(頭数)	(38)	(13)	(1)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,730	1,598	-	-
C	-	-	-	-	-
交雑去 B	1,953	1,793	1,641	1,559	-
C	-	-	-	-	-
豚	-	-	-	-	-

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	11月18日	11月17日	(11月累計)
豚	70,700	70,800	771,000
成牛計	5,330	5,510	54,410
和牛雌	1,560	1,420	14,700
和牛去勢	1,300	1,700	15,030
乳牛雌	850	350	7,710
乳牛去勢	540	520	4,750
交雑雌	570	560	5,530
交雑去	510	920	6,510

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 11月18日

	1,640円	(前日 1,606円)
東京		
大阪	1,595円	(前日 1,624円)

[豚・全農建値] 11月18日

上	中	取引頭数	市況
612円	594円	1,262頭	反落

と畜 売買	牛 89頭	豚 102頭	牛概況 弱もちあい
	牛 123頭	豚 -頭	豚概況 -

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 11月18日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	594 (594)	- (-)	6,344	-	もちあい
仙台 [中]	599 (593)	573 (516)	500	36	上伸
栃木 [地]	- (-)	- (-)	-	-	休市
茨城 [地]	622 (603)	583 (576)	1,452	728	続伸
群馬 [地]	603 (633)	531 (546)	2,559	317	反落
さいたま [中]	614 (632)	608 (632)	213	220	反落
東京 [中]	606 (616)	583 (605)	995	1,066	急反落
横浜 [中]	616 (613)	592 (588)	688	688	もちあい
山梨 [地]	700 (-)	676 (-)	143	93	上伸
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	-
名古屋 [中]	600 (614)	589 (594)	1,000	263	下落
京都 [中]	619 (621)	606 (602)	108	110	もちあい
大阪 [中]	- (612)	- (578)	102	-	-
神戸 [中]	729 (-)	716 (-)	-	159	-
岡山 [地]	613 (607)	605 (595)	386	292	-
広島 [中]	603 (593)	573 (563)	469	96	上伸
福岡 [中]	595 (586)	557 (558)	580	203	反発

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 11月11日～11月17日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,590,626 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,172	1,216	1,272	1,217	68,052
うで	734	802	851	791	134,103
ロース	1,069	1,190	1,242	1,174	120,320
ばら	1,242	1,270	1,334	1,273	165,951
もも	756	802	853	805	174,813
ヒレ	1,056	1,093	1,258	1,093	15,021
セット	919	1,058	1,074	1,016	912,366

◇近畿圏 総重量 777,079 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,177	1,296	1,338	1,286	67,334
うで	697	750	810	745	124,469
ロース	1,058	1,125	1,264	1,146	107,778
ばら	1,192	1,306	1,393	1,301	147,638
もも	712	740	824	746	170,961
ヒレ	1,134	1,183	1,248	1,180	12,542
セット	887	964	1,089	985	146,357

[食鳥正肉日経相場] 11月17日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	668	740	940	200
ムネ	496	545	688	159

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	655	724	1,030	5
ムネ	480	523	615	3

[農水省統計情報部食鳥市況] 11月17日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,003	768	550	600	650
安値	640	450	290	360	350
平均	744	551	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランケット判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強化にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男
鏡見 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーショナリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します